

全般 1か月予報

(9月2日から10月1日までの天候見通し)

平成29年8月31日
気象庁 地球環境・海洋部発表

<特に注意を要する事項>

北・東日本では、期間のはじめは気温がかなり低くなる所があるでしょう。西日本と沖縄・奄美では、期間の前半は気温がかなり高い所があるでしょう。また、沖縄・奄美では、期間のはじめは降水量の少ない状態が続く見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

北日本と東日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。西日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、西日本で高い確率50%、沖縄・奄美で高い確率70%です。降水量は、北日本日本海側と東日本で平年並または多い確率ともに40%、北日本太平洋側で多い確率50%です。日照時間は、東・西日本日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、北日本で低い確率70%、東日本で低い確率60%、西日本で平年並または低い確率ともに40%、沖縄・奄美で高い確率80%です。2週目は、北日本で平年並または高い確率ともに40%、東日本で平年並の確率50%、西日本で高い確率50%、沖縄・奄美で高い確率70%です。3～4週目は、北・東日本で平年並または高い確率ともに40%、西日本と沖縄・奄美で高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[気温]

北日本	30	40	30
東日本	30	40	30
西日本	20	30	50
沖縄・奄美	10	20	70

[降水量]

北日本日本海側	20	40	40
北日本太平洋側	20	30	50
東日本日本海側	20	40	40
東日本太平洋側	20	40	40
西日本日本海側	30	40	30
西日本太平洋側	30	40	30
沖縄・奄美	30	40	30

[日照時間]

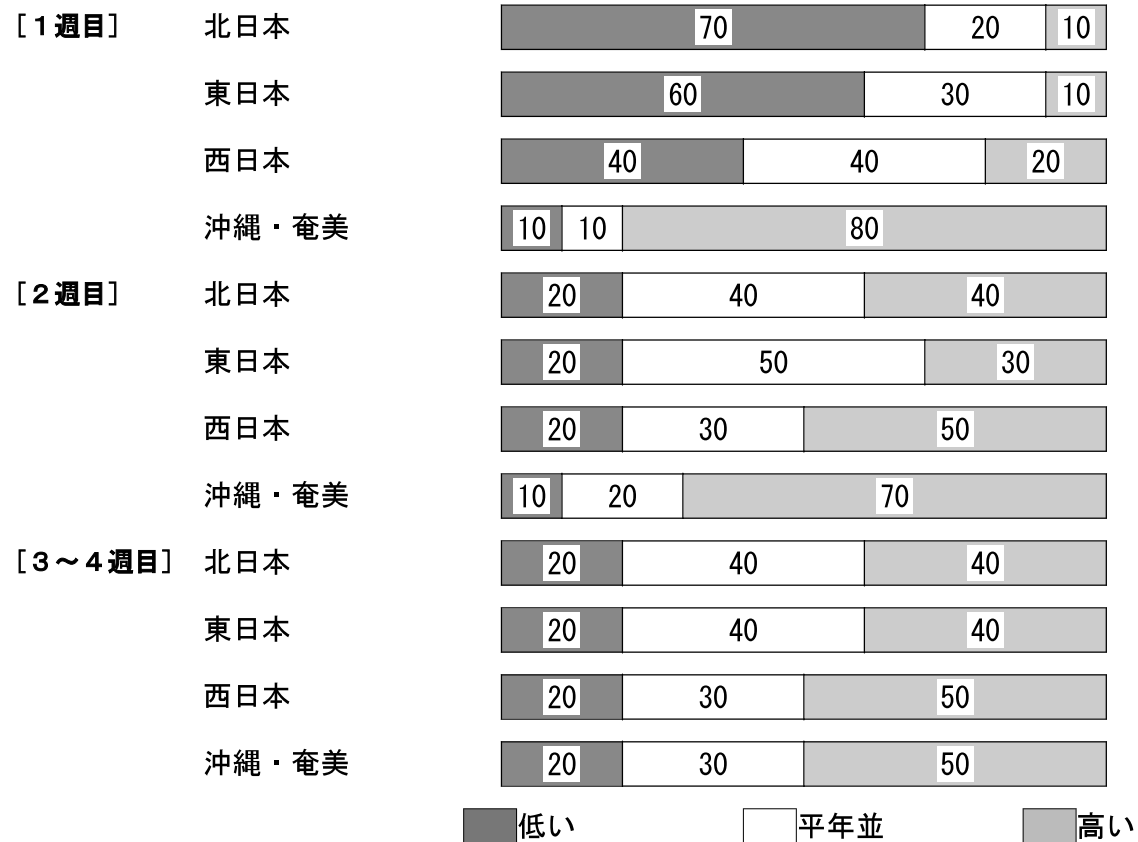
北日本日本海側	30	40	30
北日本太平洋側	30	40	30
東日本日本海側	20	40	40
東日本太平洋側	30	40	30
西日本日本海側	20	40	40
西日本太平洋側	30	40	30
沖縄・奄美	30	40	30

低い(少ない)

平年並

高い(多い)

<気温経過の各階級の確率（％）>



<予報の対象期間>

1か月 : 9月 2日（土）～ 10月 1日（日）
 1週目 : 9月 2日（土）～ 9月 8日（金）
 2週目 : 9月 9日（土）～ 9月 15日（金）
 3～4週目 : 9月 16日（土）～ 9月 29日（金）

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週木曜日 14時30分 次回は9月7日
 3か月予報：9月25日（月） 14時
 寒候期予報：9月25日（月） 14時

＜参考資料（平年並の範囲）＞

（１）1981～2010 年のデータに基づいた向こう 1 か月地域平均の気温、降水量などの平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)		降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
北日本	-0.4～+0.3	日本海側 太平洋側	85～115 84～112	95～106 93～108
東日本	-0.3～+0.5	日本海側 太平洋側	76～118 80～116	94～106 94～105
西日本	-0.4～+0.4	日本海側 太平洋側	80～114 71～123	94～105 93～104
沖縄・奄美	-0.1～+0.2		75～106	94～107

（２）この予報期間の 1 週目、2 週目、3～4 週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1 週目	2 週目	3～4 週目
北日本	-0.6～+0.7	-0.6～+0.7	-0.4～+0.4
東日本	-0.4～+0.7	-0.5～+0.8	-0.7～+0.4
西日本	-0.3～+0.6	-0.4～+0.6	-0.4～+0.3
沖縄・奄美	-0.2～+0.2	-0.1～+0.4	-0.1～+0.3

＜参考資料（利用上の注意）＞

（１）気温（降水量）等は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1981～2010 年の 30 年間における各階級の出現率が等分（それぞれ 33％）となるように決めてあります（気候的出現率と呼びます）。

（２）予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった 10％以下や 60％以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度（30％、40％）の確率しか付けられません。

（３）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（少ない）ことを意味します。